

ナシダイ諸学融合シンポジウム

12月20日(水)

大学会館ラウンジ

(山梨大学甲府キャンパス内)



開場 13:00 開演 14:00

開会挨拶

山梨大学学長 中村 和彦

次第

13:00～ 開場、研究紹介ポスター掲示

14:00～16:00 ポスター発表コアタイム

本学研究プロジェクト採択者による説明・質疑応答

- ・学術・社会変革研究プロジェクト
- ・大学発ベンチャー創成プロジェクト
- ・若手人材育成プラットフォーム事業
- ・ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

16:00～17:00 フリーディスカッションタイム

コーヒースタンド有

閉会挨拶

山梨大学理事(学術研究担当) 茅 暁陽

お問い合わせ

URA・社会連携センター
urascc-tr@yamanashi.ac.jp

参加申込フォーム(12/11まで)
<https://forms.office.com/r/JrvijZJzYY>

当日参加もできますが、事前申込にご協力をお願い申し上げます。

シンポジウムの趣旨

山梨大学は、「諸学融合」を通じて学術研究・科学技術の発展を促進させること、及び本学の知見を社会変革やSDGs貢献につなげるイノベーションの創出を目指し、研究プロジェクトを展開しています。本シンポジウムでは、令和5年度の本学プロジェクト採択者が研究紹介を行うとともに、さまざまな分野の研究者が一堂に集結する機会とし、本学の諸学融合による研究活動をより一層活発化させることを目指します。

発表者・タイトル一覧

時間	A. 学術・社会変革研究プロジェクト	B. 大学発ベンチャー創成プロジェクト C. 若手人材育成プラットフォームによる若手研究者支援 D. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型） 地域貢献型研究支援
14:00 ～15:00	<p>A-1. 井上 久美（工学） 病気の原因を「取り出す・見る」技術の開発</p> <p>A-2. 片岡 良太（生命環境） 化学農薬散布を大幅に削減したモモ栽培を可能にする生態系機能の解明～微生物-植物-動物をつなぐ三者間ネットワーク～</p> <p>A-3. 齋藤 正英（医学） 放射線治療と人工知能の融合による新規高精度放射線治療技術の開発</p> <p>A-4. 中尾 篤人（医学） 花粉症と睡眠 食事のタイミングやマイクロ環境因子との関係を先端的手法を用いて解明する</p> <p>A-5. 吉村 健太郎（医学） 質量分析と機械学習を基盤とした超迅速ウイルス感染スクリーニングシステムの構築</p> <p>A-6. 若山 清香（発生工学） 哺乳類のためのサステナブルな遺伝資源保存法の開発</p>	<p>B-1. 古藤田 眞和（医学） 医療行為の安全性・確実性・有効性を向上させる機器の開発</p> <p>B-2. 鈴木 堅太郎（生命環境） 慢性疼痛の痛み緩和剤新薬開発等に関連するベンチャー創出計画</p> <p>B-3. 武田 哲明（工学） 浅層地中熱利用型ヒートポンプの実装事業</p> <p>C-1. 原 康祐（工学） 高効率なダブルヘテロ接合BaSi2太陽電池の開発</p> <p>D-1. 石山 詩織（生命環境） 穀物の機能性に関する研究：胚環境操作MEMマウスへの大麦投与によるサイトカインストームの抑制機構の解明</p> <p>D-2. 斉藤 史恵（生命環境） 「日本ワインのフレーバーの可視化」</p> <p>D-3. 加賀 佳美・代理 菊池 桜（医学） 神経発達症養育者のリテラシーが児の問題行動およびメンタルヘルスに及ぼす影響について</p>
15:00 ～16:00	<p>A-7. 浮田 芳昭（工学） マイクロチップラボテクニシャン</p> <p>A-8. 喜多村 和郎（医学） ニューロン-グリア連関による運動学習機構の解明</p> <p>A-9. 三宅 邦夫（医学） 先制医療の実現に向けた腸内細菌叢解析によるDOHaD分子メカニズムの解明</p> <p>A-10. 宮本 和子（国際交流） 地球規模の課題解決への開発途上国農村からの挑戦：地域での暮らしと命を支える水資源管理・カンボジアケーススタディー</p> <p>A-11. 八重樫 咲子（工学） 生物・環境情報から見た生態系と人間社会の環境適応の歴史とその利用</p> <p>A-12. 吉澤 邦夫（医学） 難治性口腔外科疾患 口腔癌 顎骨髄炎に対する機械学習による治療支援ツールの開発：病理バーチャルスライドおよび顎骨レントゲン画像を用いて</p>	<p>B-4. 安藤 英俊（工学） GPU上での超高速画像処理技術の開発と外観検査・医療画像・防犯映像等への社会実装</p> <p>B-5. 篠原 良章（医学） 健康長寿を実現するための脳刺激実験を行う目的で、高齢ブタを用いた脳機能評価プラットフォームを創生する</p> <p>B-6. 田中 敦（生命環境） グローバルデジタルノマド需要にも対応可能な新たなワーケーション型観光ビジネスモデルの構築と事業化</p> <p>D-4. 岡松 恵（教育） 自然共生を推進する山梨県における「捕獲鹿革」の継続的活用を促す教材提案</p> <p>D-5. 井上 絵梨（生命環境） 山梨県内で栽培されている赤ワイン用ブドウ品種の着色に関するフェノール化合物の網羅的解析から見る気候変動適応度の評価</p> <p>D-6. 丸山 聡子（生命環境） 穀物の機能性に関する研究：大麦の摂取が老齡モデルマウスの代謝異常に及ぼす影響</p>